

2日間の実習を通して感じたこと、考えたこと

M13067 手塚 雄大

8月23日、24日の2日間、ひばりクリニック、うりずんにて実習させていただいて、まず、ご利用者様が自宅で最期の残された時間を過ごしたり、医療的ケアが必要な心身に障害を持った子ども達が自宅で生活したりするためには、家族の協力が必要不可欠なのだ、ということ学びました。そして、そうした家族の方々が、過労や心労で倒れてしまわないようにするためにも、ご利用者様とその家族を包括的にサポートできるような医師に将来なりたいな、と強く思うようになりました。現状、このようなご利用者様、子ども達が地域で暮らしていくために必要な制度や支援体制は、まだまだ整っていないように感じているので、こうした地域の社会問題にも気を配れるような心優しい人間に成長したいです。

また、特に新規ご利用者様の面談の際に感じたのですが、高橋先生のご利用者様と接する姿勢がとても丁寧で、ぜひ見習いたいなと思いました。ご利用者様(患者様)の近くに座り、寄り添ってじっくりとお話を聴くことは非常に重要なことなのだ、と再認識させていただきました。患者様のお話を時間をかけて丁寧に聴くことは、学生時代の方がより可能だと思うので、今後のBSLで意識してさっそく実践していきたいと思います。

他にも、栃木県中央児童相談所の子ども達の健診に同行した際に、今後児童相談所を退所した後、安心して暮らしていけるかを考えることは、今まで経験したことがなかったので非常に貴重な経験でした。個人的に、発達障害や自閉症といった子どもの精神疾患にもともと興味があったので、とても有意義でした。子どもの親や家族背景を考慮して、よりよい解決策を探るお手伝いが将来できたらな、と思っております。

重篤な疾患を抱えた子どもや家庭の事情、社会的問題を抱えた子どもが、当たり前前の暮らしをできるようにする。このことをじっくり考えるきっかけとなった、非常に実り大きい2日間でした。もし次回機会がありましたら、今回時間の関係でできなかった、うりずんにて、利用している子ども達と一緒に歌を歌ったり、レクリエーションをしたりしたいなと思っております。

最後になりますが、ひばりクリニック、うりずんの皆様方のますますのご健勝を心よりお祈り申し上げます。2日間本当にありがとうございました。